かがやく笑顔

山梨県立やまびこ支援学校
相談支援部通信　　第２号
令和４年　９月２７日発行

新型コロナウイルスの感染拡大により、９月中は来校や訪問を制限することとなり関係する学校・機関の皆様には御理解御協力をいただきありがとうございました。今後は対面での教育相談、訪問支援等、地域支援業務も再開する予定ですので、お気軽に御連絡ください。

さて、新学期になり進路決定に向けて最終段階にさしかかってきました。児童生徒にとっては、就学・進学してからの生活をどのように過ごすのかがとても重要になってきます。そのために、実際に本人が見学や体験をして検討していく過程がとても大切です。自分で見通しをもって進路について考えることが難しいお子さんもいると思いますが、本人の思いや希望を聞く中で本人と保護者、学校等が一緒に考え、適切な教育の場を選択できるよう御協力をお願い致します。

外部専門家の活用について

本校には特別支援学校の専門性の充実を図るため、心理士、作業療法士が配置されています。専門的な立場からの助言・援助は児童生徒の実態を捉え直したり、問題行動の背景や課題を整理したりするのに活かすことができます。校内での活用が主となっていますが、最近では校外支援として地域の学校への帯同訪問を行うケースが増えています。専門家の同行が必要な場合は御相談ください。

心理士

心理状態の把握、その結果の分析等、心理面にかかわる支援

<相談事例>

感情調整が難しい、ネガティブな思考になりやすい、物事の捉え方に偏りがある、暴言・暴力が多いなど

作業療法士（OT）

日常生活に必要な応用的動作または社会的適応にかかわる支援

<相談事例>

箸やハサミがうまく使えない、縄跳びやボール運動等の協調運動が苦手、感覚過敏・鈍麻など

理学療法士（PT）

座る、立つ、歩く等の基本的動作にかかわる支援

<相談事例>

身体の使い方がぎこちない、座位や歩行の姿勢が不安定、うまく走れない、食事の姿勢が崩れるなど

言語聴覚士（ST）

ことばによるコミュニケーションにかかわる支援

<相談事例>

発音が不明瞭、吃音、言葉の遅れ、言葉が聞こえにくいなど

～外部専門家の帯同訪問から～

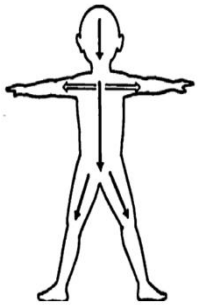
地域の学校への帯同訪問を通して、キーワードに挙がった事柄を紹介します。

心理士より
出来事や物事の捉え方に歪みがある子どもへの支援について、**認知行動療法**において認知の変容にアプローチすることも支援の一つとして考えられます。

認知行動療法について
不適応行動を起こす子どもの支援を考える際行動に着目しがちですが、「認知の歪み」が端を発している場合も少なくありません。認知行動療法では、否定的な認知から、より現実的でバランスのよい考え方に変えていき、新たな行動パターンをとることで問題解決能力を高めていきます。認知（どう受け止めるか）、感情（どう感じるか）、行動（何をするか）について、①認知の歪みを理解②感情に働きかける③行動に働きかけるステップを踏んで好循環に変えていくことが必要です。

作業療法士より
身体の使い方がぎこちない、姿勢が崩れやすい、はさみがうまく使えないなど、身体の動きに課題が見られる時には**運動発達の原則**から考えていく必要があります。

運動発達の原則について
運動の発達は、「頭部から下部へ」「中枢から末梢へ」「全体から部分へ」「両側から片側へ」「粗大運動から微細運動へ」といった一定の発達の順序性があります。そのため、目に見える困難さに着目するだけではなく、子ども一人一人の発達段階や個人差を把握した上で、望ましい方法を模索していくことが大切です。



～校内基礎研修会から～

本校配置の心理士、作業療法士の先生を講師に、本校教員の専門性の向上を目的とした研修会を行いました。

校内基礎研修会Ⅰ（作業療法士）

日常生活動作（ADL）の獲得に向けた支援について、手指機能、口腔機能、感覚、協調運動等の発達段階を学び、課題整理や支援の方向性について検討しました。また、本校重複障害学級に在籍する児童生徒について、摂食動作、更衣動作等の特徴を把握しながら、動作の細分化による課題の明確化や個々の動作促進のための方法（言語的促進、視覚的促進・身体的促進等）の有効性について、助言をいただきました。

5月19日実施
重複学級担任対象

校内基礎研修会Ⅱ（心理士）

「子ども理解と支援～心理アセスメントの視点から～」というテーマでご講義いただきました。子どもを理解する上で、生態学的アセスメント、認知機能アセスメント、行動の機能的アセスメントの視点から、「本人」とその「環境」のミスマッチから考えていくことの大切さやそのミスマッチの調整には情報が必要であることを再確認しました。また、本校生徒の事例をもとに、WISC-Ⅳの枠組みや検査結果の解釈の仕方を学びました。

9月8日実施
全教職員対象
※感染症対策のため、リモート研修となりました。

専門図書の貸出について

本校では、特別支援教育に関する専門書を所有しています。幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校等への貸し出しも行っております。貸し出しや所有している専門書に関しては、下記連絡先までお問い合わせください。

所有している専門所の中から４冊を紹介します。今回紹介したもの以外にも 300 冊ほど所蔵しています。気になった本があれば、お気軽にご連絡ください。

漢字の基礎を育てる 形・音・意味ワークシート①～④

笘廣　みさき（著）

漢字学習が難しい児童生徒に対して、「形」「音」「意味」の三つの視点からつまずきの原因を探り、漢字を楽しく学習するためのワークになっています。

①では空間認知、②では形・読み、③では読み・意味、④では形・読みのワークが収録されています。

SST ワークシート　自己認知・コミュニケーションスキル編

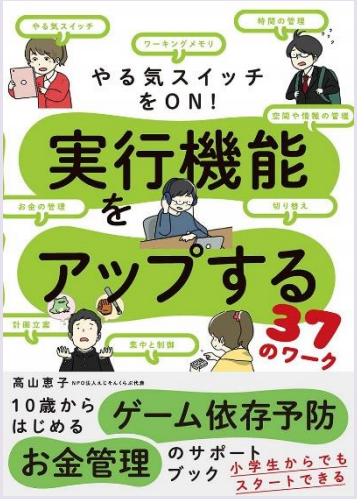
LD 発達相談センターかながわ（著）

集団の中で必要な、適切な言動が身に付くようなワークが収録されています。

学校の授業場面や日常生活の場面、友達とのやり取りなど、様々な状況のワークが多数用意されています。

やる気スイッチを ON！ 実行機能をアップする 37 のワーク

高山　恵子（著）



ワーク形式でお金や時間の管理、計画立案など学校生活や日常生活で必要なスキルを学べます。

自分の特性を理解して対処するための具体的なワーク（遅刻の予防やお小遣いの使い方など）が収録されています。

算数文章題イメージトレーニング ワークシート①たし算・ひき算

山田　充（著）

文章問題を読み、イラストを頼りに　答えたり文章問題を自分でイラストにして答えたり、文章問題を視覚的に捉えてイメージしやすくするワークです。

イラストから問題文を考えるなど様々な方法で文章問題を捉えるためのワークです。

【問い合わせ】山梨県立やまびこ支援学校　〒409-0618　大月市猿橋町桂台３丁目 31 番地１

TEL　0554-23-1943　FAX　0554-23-1946

E-mail　soudanshien@yamabikoy.kai.ed.jp　URL http://www.yamabikoy.kai.ed.jp/

相談支援担当：小林　由季、犬飼俊太郎